糸島市卓球協会主催　小中学生卓球教室　中村薫子選手講演要旨

平成２７年８月２９日　糸島市志摩体育館にて

私が今、所属する日立化成卓球部は、今年１月にあった全日本選手権で女子準優勝の森薗美咲選手がいて、優勝した石川佳純選手とも一緒に試合することもあります。チームメートは私よりみんな年下ですが、卓球に対する情熱がすごくて、私も勉強させてもらっています。

みんなと同じ私が小学生、中学生だった時の話をします。卓球を始めたのが小学１年生の時。そして本気で卓球やろうと思ったのが小学３年生の時で、小学生から中学生までが活動する卓球クラブチームに入った時に、私も周りの上級生みたいに強くなりたいと思ったのがきっかけでした。小学６年生の時に、小学生の全国大会の団体戦で優勝したことがあって、その時に回りの人たちすごく喜んでくれたことが嬉しくて、もっと強くなりたいと思いました。その当時、卓球雑誌もよく読んでいて、写真が載っている選手みたいになりたいなという思いがありました。皆さんも卓球でなくても、あこがれの人とか、なりたい人とかいますか。そういう思いがあれば、一歩勇気を持ってがんばろうと思ってくれたら嬉しいです。

前原東中を卒業してから、岐阜にある高校に進学しました。糸島を出て、岐阜に行こうと思ったのは、卓球で自分がどこまでできるのか挑戦したいという気持ちが強かったからです。家族から離れる不安もあったけど、それよりも新しい世界を観たいという好奇心の方が強かったです。実際、行ってみると寮生活で、洗濯、掃除など身の回りのことは全て自分でやらないといけなくて、今まで自分は回りの人に守られてきたのだなと実感できて、これまで「感謝しなさい。感謝しなさい。」と教えられて来たけれど、自分がその状況にならないと本当にわからないことがあるなと、これまでのことに感謝の思いが強くなりました。皆さんも「ああしなさい」「こうしなさい」と言われて、うるさいなあと思うことがあると思うけど、「自分がやるよ」と進んでやるとお母さん喜んでくれると思います。

親元を離れて気づくことが多くて、その気づきの中で成長することができたのかなあと思います。回りには卓球する仲間はいるのですけど、親とかみたいに自分を思ってくれる人がそんなにいなくて、自分で考えて行動すること、その行動に対して自分で責任を持つことは大切だと感じました。こういう中で、少しずつ力をつけて行って、少しずつ成長できたのかなあと思います。

環境が変わるとストレスもあると思うけど、外に出ることで得ることは沢山あると思います。自分が何かをがんばろうと思ったり、これやりたいなあと思った時、でも間違ったらどうしようと悪いことを考えることはないかな。その時はやってみて、もしダメだったら変えてみたらいいだろうし、もしうまく行ったらそれを続けて行けばいいと思います。私もこれまで色んな人に迷惑を掛けてきたけど、自分が悪いなあと思ったら、素直に「ご

めんなさい」と言えると、また新しい関係が築けると思います。

こうして自分がここまでやれてきたのも、沢山の人のお陰で、つらい時とか、苦しい時だったり、そういう時には必ず助けてくれる人がいて、普段がんばっている姿を見てくれている人は必ずいるので、苦しい時間はいつ終わるかわからないけど、そういう中でも自分がハッピーになれることだったり、元気になれることがあったら、そっちに目を向けて行って欲しいなと思います。

今日、皆さんの前でお話しする機会をもらって、今まで卓球を始めて１９年間ぐらいのことを振り返る時間を持つことができました。今は卓球を仕事としてやらせてもらっていますが、現役生活もそんなに長くできるものでもありません。皆さんは若くて可能性が沢山あるので、この時期を大切にして、自分が好きなものにがんばって欲しいと思います。私もまだまだがんばりますので。

【質問】

Ｑ：勉強と部活の両立はどうやってされていましたか？

Ａ：普段は学校が終わって卓球の練習までの間に時間を作ってやっていました。通っていたクラブチームでは勉強も大切にしなさいと言われていたので、夏休みとかは午前中、宿題などを持ち寄って、先輩に教えてもらいながら勉強をしていました。

Ｑ：キャプテンの心構えは

Ａ：キャプテンは嫌われ役になることが私の時にはあったけど、自分ががんばる姿勢をみんなに見せることが大切と思います。あと、キャプテンだけに頼るのではなく、回りの人もキャプテンをサポートすることが大事だと思います。